

令和2年7月教育長定例記者会見

【質疑応答】

《就職指導支援員の募集について》

N H K 就職指導支援員のことなんですけれども、具体的にどんなことをしてほしいかということをもう少し御説明いただいてもよろしいでしょうか。

教育長 はい。先ほど少し申し上げましたけれども、この就職指導支援員は、まずは求人企業の開拓、こちらの方が、今までの企業だけではなく、新規で開拓していかないと、例えばこれまでの企業が3人雇っていたところが2人になるということがあったり、あるいは、〔新型コロナウイルス感染症の影響で、〕先が見えない中で、ちょっとまだ〔採用するかどうか〕決めかねます、という企業もあったりと聞いておりますので、新規の求人企業の開拓が一つ。それからもう一つは、就職の相談であったり、あるいは面接に行くときに、もうちょっとこういうふうに言った方が分かりやすいよとか、こういうふうにした方が良いよとかという面接の指導であったり、あるいはハローワークとの連携とかですね、こういうようなことを、ぜひともお願いしたいなと思っております。つまり、学校と企業をつないでいくコネクターの役割、〔学校と企業を〕結び付けていただくような方を募集しております。

N H K 今いらっしゃる先生だと、なかなか難しいということでしょうか。

教育長 今も、JST（ジョブ・サポート・ティーチャー）という方がいらっしゃるんですけれども、人数が足りないので強化をするということで、今回就職指導支援員という形で、ぜひとも募集をしていきたいなと思っております。あくまで補強・強化で、増員するというイメージです。

N H K 週5日で1日5～6時間となると、兼務は難しいと思うので、退職された方とか、そういうイメージでしょうか。

教育長 そうですね。既に御退職されて、例えば広島以外にお住まいの方でも、広島に帰ってきて、広島県のために何か一肌脱いでくださるような、そういうような方が来てくださればいいなと思っております。

《学校の臨時休業に係る対応について》

朝日新聞 〔新型〕コロナ〔ウイルス感染症〕の影響で休校になって、学校では夏休みを短縮するということが、県内であると思うんですが、ここ数日、大雨の影響で、例えば、特に小学校のことになってしまうと思うんですが、呉〔市〕とか広島〔市〕とかで休校になっていると。まだこの雨のシーズンでもあることもあって、まだ分からないんですけれども、その辺りの授業時数の確保とか、その点については、現行のまま、短くしたままですか、さらに状況によっては更なる短縮というのも考えるのか、その辺りのお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

教育長 小学校・中学校については、各市町の方〔の判断〕になるかと思うんですけれども、だからオンラインの授業をつなげるということで。今、〔新型〕コロナ〔ウイルス感染症〕だけではなくて、豪雨災害など様々なことが考えられるので、だからオンラインでいつでも切り替えられるように、ということで今やっているところでございます。今、雨が降っておりますけれども、まずは被害がないということをお願いしたいですし、学校の大雨等による短縮等についても、ちょっとまだ整理が図られておりませんが、高等学校につきましては、そういう意味では十分な授業時数等を確保しておりますので、特段今回の雨で、ということはないとは思いますが、あとは小中学校に関しましては各市町で御判断ということになるんですが、今後連携して結果を見守っていききたいなと思っております。

《県立高等学校の学科の再編について》

中国新聞 沼南高〔等学〕校について、1点お伺いします。今回、普通科の廃止ということなんですけれども、家政科と園芸デザイン科の今の入学者数を見ても、普通科と同じくらいかなり減ってきていると思うんですが、てこ入れをする上で、教育長としてはどういう観点でブラッシュアップを図るお考えでしょうか。

教育長 はい、ありがとうございます。先ほど少し説明をさせていただきましたけれども、普通科は他の学校にもありますけれども、家政科（家庭に関する学科）と園芸デザイン科（農業に関する学科）は、福山市域ではここしかありません。それから〔沼南高等学校の〕就職に関しましても、昨年度まで就職希望者の100%が就職しているなど、そういった意味では地域産業の発展に貢献できる人材を育成していくことが急務だと思っております。そういう意味で家政科と園芸デザイン科でございますけれども、広大な農地もあるということで、今後、家政科と園芸デザイン科のそれぞれが独立独歩でやるというより、それぞれが良いところを融合して、縦割りではなくて、カリキュラムを編成していくことが重要だと思っておりますので、その辺りがこの学校の特徴になってくるんじゃないかなと思っております。

中国新聞 加えて中学生が減っていくという少子化の流れは、県内でこれから長く予想される中で、今回はこの福山市域で、沼南高〔等学〕校だと思うんですが、この学校以外にもこういう状況に陥る学校がこれから出てくると思うんですけれども、そういうところの対策というか、大きな視点で教育委員会として何をしていきたいとお考えですか。

教育長 まず学校の特徴付けですね。入試の方でも学校の特徴付けをした上で、アドミッション・ポリシーを考えてくださいということになっておりますけれども、その学校の存在意義というところを良く学校の方でも、あるいは教育委員会の方でも考えていきたいなど。そこを強める形でぜひともわたしたちとしても支援をしていきたいと思っております。今回は沼南高等学校というところで、これもだいぶ長い時間をかけて学校と話し合いをしてこのようになっておりまして、あと今後というところではまだ分からないのでコメントはできないんですけれども、いずれにいたしましても各学校の存在意義というところが、大きな一つの指標になってくるかなと思っております。